



卒業生有志よりマスク寄贈!



新型コロナウイルス感染症の影響で、今年は学校行事や部活動にも大きな影響が出ていますが、9月3日(木)に、野球部出身の根間大輔さん・伊志嶺誠太さんを中心とする25名の各部活の2012年度卒業生有志から、宮古高の部活生へ850枚のマスクの寄贈がありました。

離島である宮古島の部活生は、大会などで必ず島外に出ないといけない、そんな後輩たちにマスクを着用し、安心して部活動に頑張ってもらいたいという志によるものです。マスクのデザインは、虹をイメージした「High school」、その上を歩く「MY K」(「No rain, no rainbow.」=「雨なくして虹なし」)をイメージしたものです。「辛くてもその先は綺麗な景色が見える、そのために卒業生も含めて、宮高全員で歩いて行こう、という思いを込めたデザインとなっています。

寄贈式では、部活生を代表して、卓球部2年の松堂風月くん(平良中)、ウエイトリフティング部3年の井上海さん(久松中)、放送部2年の多良間遼大くん(久松中)がマスクを受け取り、井上さんがお礼の言葉を述べました。

明けの夜はあきらめません。新型コロナは必ず落ち着きます。今回のマスク贈呈の気持ちを受け止め、感染症対策に努め、一喜一憂することなく、毎日の生活はもちろろん、日々の練習に着実に取り組み、新型コロナが落ち着き、平常復帰したときに、万全な態勢で試合に臨めるよう頑張ってくださいませよう。



職員研修(先進校訪問)が開催されました

来 年3月の伊良部高校の閉校によって、宮古高校は宮古地区唯一の普通高校となります。その中で、多様な生徒の進路指導や学力向上、設置30年を過ぎた理数科の改革など、本校が直面する課題は多岐に渡っています。

そのような本校の課題研究の一環として、7月27日(月)・28日(火)に進路指導部主任の江田先生と理数科主任の仲地先生が、特色ある学科として名護高校のフロンティア科と、ICT実践校として読谷高校のスタディサプリ、コザ高校のクラッシーの学習支援アプリの視察に行き、その内容を職員に報告する職員研修が8月27日(木)に行われました。

まず最初に、理数科主任の仲地先生より、名護高校フロンティア科の特色と実践について報告がありました。名護高校のフロンティア科の設置目的である、「北部地区からの生徒流出の歯止め」「国公立大学への進学率向上を核とした生徒の学力向上」等は、本校の課題にも直接繋がるものであり、そのための手立てとしての「くくり募集」や特色ある教育課程は、今後導入に向け



宮古高校での実践イメージ

- ① 課題作成+チェック業務の効率化
- ② 課外講座への活用 and 規模縮小
- ③ 授業への活用(反転授業など)
- ④ 「自学ノート → 動画+確認テスト」※負担減 活用習慣化
- ⑤ Review time (自学チェック効率化, 振り返りアドバイス)
- ⑥ 第3回実テに到達度を活用 → 1,2月模試普通科希望者

※問題はインフラ整備 進路予算で学習室にWifiを

て研究する必要があると感じました。

次に、進路指導部主任の江田先生より、学習支援アプリ導入に向けたICT実践校視察報告がありました。今回のコロナ禍で明らかになったように、オンライン学習の重要性はこれからますます高まってきます。すでに県内の普通高校等39校中、約三分の一の高校が学習支援アプリを導入しています。読谷高校やコザ高校の実践事例を参考に、宮古高校でも来年4月からの導入に向け、研究を進めていきたいと思えます。

忙しい中、今回の訪問を快く受け入れてくれた名護高校の辻上弘子校長、読谷高校の仲宗根勝校長、コザ高校の東盛敬校長を始め、各校の先生方に心よりお礼申し上げます。